



差 替 え

令和 8 年 9 月 ~~11~~14 日
内閣府政策統括官（防災担当）

令和 8 年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者決定について

標記について、別添のとおり受賞者が決定しましたのでお知らせします。

※ 防災功労者内閣総理大臣表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和 57 年 5 月 11 日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として表彰するものです。

【本件問合せ先】

内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（総括担当）付 池田、篠田、米山

電話：03-3593-2844（直）FAX：03-3503-5690

令和8年 防災功労者 内閣総理大臣表彰 受賞者名簿

[災害現場での顕著な防災活動]

○ 個人（なし）

○ 団体（9団体）

（令和6年能登半島地震他）

一般社団法人 捜索救助犬HDS K9愛知 (愛知県)

（令和6年7月の大雨災害）

米原市消防団伊吹方面隊 第2分団伊吹班 (滋賀県)

（令和7年8月の大雨災害）

八代市消防団 (熊本県)

玉名市消防団 (熊本県)

熊本市消防団 (熊本県)

霧島市消防団 (鹿児島県)

国土交通省緊急災害対策派遣隊 (東京都)

国立研究開発法人土木研究所緊急災害対策派遣隊 (茨城県)

（令和7年10月の台風による大雨・暴風災害）

八丈町消防団 (東京都)

〔防災思想の普及〕

○ 個人（6名）

郡山地方消防防災協会 理事

舟 橋 壮 介

（福島県）

千葉科学大学招聘教授

崎 山 光 一

（和歌山県）

鳥取県学校防災アドバイザー

横 山 ひ と み

（鳥取県）

愛媛大学名誉教授

矢 田 部 龍 一

（愛媛県）

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 教授

鍵 屋 一

（東京都）

東海国立大学機構名古屋大学 名誉教授・特任教授

草 野 完 也

（神奈川県）

○ 団体（5団体）

公益社団法人 SL災害ボランティアネットワーク・市原

（千葉県）

野方区自主防災会

（愛知県）

釧路市防火管理者連絡協議会

（北海道）

徳島県立阿南光高等学校 防災士の会

（徳島県）

燕市児童研修館「こどもの森」

（新潟県）

〔防災体制の整備〕

○ 個人（１０名）

日本防災士会本部 理事長 植 村 信 吉	(奈良県)
徳島大学教授、 環境防災研究センター 副センター長 上 月 康 則	(徳島県)
国立研究開発法人 防災科学技術研究所 研究主監 岩 波 越	(茨城県)
東北大学大学院理学研究科 教授 太 田 雄 策	(宮城県)
東京大学生産技術研究所 教授 加 藤 孝 明	(神奈川県)
国立研究開発法人 防災科学技術研究所 連携研究フエロー 高 橋 成 実	(神奈川県)
鹿児島大学 水産学部長、農林水産学研究科長 西 隆 一 郎	(鹿児島県)
日本大学危機管理学部危機管理学科 教授 秦 康 範	(山梨県)
東京大学地震研究所 教授 三 宅 弘 恵	(東京都)
国立大学法人信州大学 名誉教授 平 松 晋 也	(長野県)

○ 団体（１１団体）

切畑自主防災会	(秋田県)
西福田学区連絡協議会	(愛知県)
星崎学区連絡協議会	(愛知県)
桃山学区防災安心まちづくり委員会	(愛知県)
加太地区防災会	(和歌山県)
八万地区自主防災会連絡協議会	(徳島県)
西牟田区自主防災会	(佐賀県)
一般社団法人 奏の杜パートナーズ・三菱地所グループの防災倶楽部	(千葉県)
高知防災プロジェクト	(高知県)
隅西災害時サポート隊	(東京都)
三河湾明海地区産業基地運営自治会	(愛知県)

以上４１件（個人 １６件、団体２５件）

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	いっばんしゃだんほうじんそうさくきゅうじょけんえいちでいえすけーないんあいち 一般社団法人 搜索救助犬HDS K9愛知
所 在 地	愛知県豊橋市
代 表 者 (団体での職名)	代表 すぎはら ひさよ 杉原 久依
功 績 の 概 要	全国各地の各行政機関からの要請にこたえている点は評価されるべき活動で、特に、能登半島地震や愛知県蒲郡市の災害現場での、要救助者の発見に至るまでの活動は表彰に値します。 平時から、県や市主催の総合防災訓練などの参加も積極的に行い、多くの市民に対し搜索救助犬の必要性や、ペット防災の必要性なども広く啓発活動も行っています。 特別な訓練を受けている犬でしか活動できない点が最大のポイントであり難しい点である。その特殊な能力を訓練し持ち合わせる救助犬の育成は、この団体の最大の特徴でもあり、今後も活動を広めていくべきで、多くの市民に認知していく必要がある活動である。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	まいばらししょうぼうだんいぶきほうめんたいだいにぶんだんいぶきはん 米原市消防団伊吹方面隊 第2分団伊吹班
所 在 地	滋賀県米原市
代 表 者 (団体での職名)	班長 やす ひろあき 野洲 寛明
功 績 の 概 要	伊吹班は、令和6年7月1、15、25日の大雨による伊吹山からの3度にもわたる土砂災害において、その都度発災時より団員の緊急出動を行い地域の住民の安否や災害状況の確認を行った。 また災害時以外でも特に当初発災時から避難解除される9月30日までは、大雨や台風の度に昼夜を問わず、水路や道路において土砂や流水状況などの現地確認に回っておりました。 さらに、土砂災害発生後においては住宅内の土砂撤去や、住宅内への流水防止のための土のう積などの対処にも従事されていました。そのような地域への水防活動を行い、水害・土砂災害被害の軽減・防止にも活躍され、幸い人的被害もありませんでした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	やつしろししょうぼうだん 八代市消防団
所 在 地	熊本県八代市
代 表 者 (団体での職名)	団長 つるいけ いさお 鶴池 功
功 績 の 概 要	八代市消防団は、発災直後から住民の避難呼びかけを行い、豪雨が降り続く中、昼夜にわたり避難誘導や救助支援、安否確認、河川警戒巡視、支援物資搬送、土砂災害現場での応急対応（土砂撤去・土のう積み）等の防災活動を行った。 発災後においても、土砂等の除去及び倒木等の除去による道路啓開を行い、多くの団員自身が被災していた中、家屋内に流れ込んだ土砂の撤去や家財搬出、排水作業など被災した住民に寄り添い献身的な復興支援を行った。 （１）救助活動 大雨で内水氾濫が起こり、自宅や車に取り残される事案が多数発生し、消防本部及び警察への救助要請が殺到する事態が生じた。 そのような中、八代市消防団では、消防と協力し、浸水・道路崩落等により陸路での移動が困難な中、総勢約２５０名が出動し、浸水家屋や水没車両からの救助支援を行うとともに、孤立した住民を市中心部に開設した避難所へ、消防車や人力を使い搬送する作業も行った。 特に、八代市街地においては、家屋に取り残された高齢者や足の不自由な住民を消防車両で救出し、安全な場所に運んだだけではなく、近くの住居に取り残しが無いか、車両で近づくことが困難な場所においては、増水し足元が見えづらいなか徒歩で確認を行った。その結果、平屋や団地に取り残された住民を複数名発見し、他の消防団員と協力し負ぶって高層建物まで運ぶなど、危険を顧みず命がけで救助活動を行った。 また、宮地東地区においても、山腹崩落による大規模な孤立集落が発生し、崩落の危険が残るなか現地にいた分団長を筆頭に、電波が届く場所まで捜し歩き、市と連絡を取り救助ヘリの誘導を行い十数名の住民を救出しただけではなく、届いた支援物資を不安定な道路状況の中運搬し、自己を顧みず取り残された住民に常に寄り添った。 （２）地域住民の安否確認 本市全体で起きた内水氾濫や土砂災害における道路崩落・広範囲な浸水により、安否不明者が多数おり、地勢や住民情報に精通した地元消防団に協力を要請し、消防車両での救助活動も困難な中、消防団員１００名以上が安否確認を行った。 （３）流木や土砂・倒木の撤去等 発災後、本市の至る所に土砂や瓦礫が山積し、また道路等でも多数の土砂崩落・倒木が発生した。消防団においては、２５０名以上の団員が、自らも被災していながら住民の家屋の土砂等の撤去や道路の土砂・倒木撤去や排水作業など、危険排除とともに道路の啓開活動・警戒巡視を行った。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	たまなししょうぼうだん 玉名市消防団
所 在 地	熊本県玉名市
代 表 者 (団体での職名)	団長 いけだ あつじ 池田 篤治
功 績 の 概 要	玉名市消防団は、令和7年8月10日から熊本県を襲った令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨において、3日間にわたり、延べ544名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視を行い、河川越水等に伴う道路冠水の通行止め、避難誘導を行い、人的被害を未然に防いだ。 また、冠水に伴い、自宅周辺が冠水し孤立した住宅から、地域住民約30名をボートで救出した。 この他、冠水による孤立住宅の解消のため、消防用のポンプ11台を活用し、排水作業を行い、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	くまもとしょうぼうだん 熊本市消防団
所 在 地	熊本県熊本市
代 表 者 (団体での職名)	団長 なかぐち まさる 中口 優
功 績 の 概 要	熊本市消防団は、令和7年8月10日からの大雨に際し、8月10日から11日にかけて延べ96ケ分団471名が出動した。各地越水により床上浸水等の被害を受ける危険な状況の中、巡回警戒広報、住民の避難誘導等を行い、増水により脱出困難となった住民45名をボートにより救助し、人的被害の軽減のため活動した。

功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	きりしまししょうぼうだん 霧島市消防団
所 在 地	鹿児島県霧島市
代 表 者 (団体での職名)	団長 しもつまがり まさる 下津曲 勝
功 績 の 概 要	令和7年8月6日からの大雨災害において、8月8日午前6時頃、隼人方面隊日当山第二分団姫城部の消防団員4名が、地域を巡回警備中、水没している軽車両の車内に要救助者を発見。胸部付近まで水があがってきている中を歩いて車両まで接近、後部の窓ガラスをハンマーで割り、取り残されていた男性1名を車外に救出した。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくどうつうしょうきんきゅうさいがいたいさくはけんたい 国土交通省緊急災害対策派遣隊
所 在 地	東京都千代田区
代 表 者 (団体での職名)	あ べ せいじ 阿部 成二
功績の概要	8月6日（水）から12日（火）にかけて、日本付近に停滞した前線等の影響で大気の状態が非常に不安定となり、北日本から西日本の広い範囲の各地で線状降水帯が発生するなど記録的な大雨となり、特に、鹿児島県、熊本県では大雨特別警報を発表した。6日から12日にかけての雨量は、熊本県や福岡県では600ミリを超えたほか、その他の九州北部地方、九州南部、北陸地方、及び甲信地方でも500ミリを超え、平年8月降雨量の3倍以上となった地点もあったなど、記録的な大雨となった。 これらの大雨により、多くの河川で浸水被害や土砂災害、断水等が発生するとともに、人的被害や多くの住家被害をもたらした。 国土交通省では、災害対策連絡調整会議を実施するとともに、被災地へのべ1,035人・日の緊急災害対策派遣隊を派遣した（令和7年8月5日～令和7年9月10日）。 各機関の緊急災害対策派遣隊は、現地関係者との連絡調整、自治体所管施設の被害状況調査、断水地域での給水支援のほか、浸水解消に向けた排水作業、協定業者と連携した道路啓開、斜面崩壊箇所の応急復旧に向けた技術的支援等を行い、全力で地方公共団体への支援を実施した。 その活動は、被災地の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体等から大きな信頼を得ることとなり、その功績は顕著である。

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 名 称	こくりつけんきゅうかいはつほうじんどぼくけんきゅうじょきんきゅうさいがいはけんたい 国立研究開発法人土木研究所 緊急災害対策派遣隊
所 在 地	茨城県つくば市
代 表 者 (団体での職名)	上席研究員 にしだ ひであき 西田 秀明
功 績 の 概 要	令和7年8月6日からの大雨に対応するために、1日間延べ1名の専門家を派遣し、国道10号網掛橋の橋台洗掘について復旧検討に係る高度な技術指導を実施し、被災地の早期復旧に大きく貢献した。 ・派遣隊員数：1名 ・派遣期間：令和7年8月11日 ・主な活動内容：橋台洗掘に係る高度な技術指導

功 績 概 要

団体〔災害時の防災活動〕

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	はちじょうまちしょうぼうだん 八丈町消防団
所 在 地	東京都八丈島八丈町
代 表 者 (団体での職名)	団長 おきやま かつみ 沖山 克身
功 績 の 概 要	令和7年10月8日に台風22号が、同月12日に台風23号が相次いで本町に接近・通過した。 両台風ともに強い勢力を維持したまま伊豆諸島に接近し、町内では最大瞬間風速50m/s以上の暴風、長時間の停電、複数地区での断水、倒木や土砂流入による道路閉塞、家屋損壊などが発生した。 八丈町は外部支援が直ちに到達しにくい離島特性を有するため、消防団は消防本部・町役場と連携し、生活支援と安全確保を中心とした自主防災的活動を行った。 消防団活動 警戒態勢の確立 台風接近前に 各分団に詰所での警戒配備を下命し自主避難困難者を中心に見回り活動を実施し、避難勧告情報の周知を行った。 倒木・道路障害の初期対応 台風通過後、町内各所で倒木・土砂流入が発生した。特に中之郷～末吉地区、檜立連絡道で倒木処理が集中しており、分団員による倒木撤去（町道・生活道路）を実施した。 この活動により道路閉塞が早期解消し、消防本部車両・救急車両の通行確保に寄与する結果となった。 断水地域への雑用水搬送支援 台風22号・23号による複数地区の断水に対し、消防団は消防本部の要請を受け 雑用水の輸送・配布支援 を実施した。 これにより町民生活の安定化に大きく寄与した。

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	ふなはし そうすけ 舟橋 壮介
住 所	福島県郡山市
職 業	自営業
功 績 の 概 要	舟橋壮介氏は、現在、郡山地方消防組合の協力団体である郡山地方消防防災協会の理事の要職にある。 同氏は、地域防災対策の重要性を深く認識するとともに、日頃から、防災に関する講習会の開催や各種行事に積極的に参画している。また、住民が安全で安心できる地域を目指し、長年にわたり先頭に立って防火・防災活動を牽引しており、豊富な識見と強力なリーダーシップを発揮し、地域防災対策にも取り組んでいる。 地域住民からも信頼が厚く、地域の安全・安心の普及に多大な貢献をしており、福島県及び郡山地方の地域防災力の向上に寄与した功績は誠に大きく、極めて顕著である。

功 績 概 要

個人〔防災思想の普及〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	さきやま こういち 崎山 光一
住 所	和歌山県有田郡広川町
職 業	千葉科学大学招聘教授
功 績 の 概 要	氏は令和7年9月に防災担当大臣表彰を受賞した後も、津波防災思想の普及に継続して取り組んでいる。具体的な活動は以下のとおりである。 ・ 新聞連載による歴史的教訓の発信（令和7年8月～、和歌山特報紙上） 和歌山県内の新聞「和歌山特報」において、濱口梧陵の功績を中心とした連載を開始。梧陵の行動や思想を紹介しつつ、氏自身の見解を加え、読み手にわかりやすい話し言葉で解説している。地域住民に対し、防災文化の背景やその現代的意義を伝えている。 ・ 全国語り部ネットワークへの参加（令和8年3月、全国被災地語り部シンポジウム） 全国の語り部が集うシンポジウムにパネラーとして登壇し、広川町の津波防災の事例を紹介。他地域の語り部と意見交換を行い、教訓の共有や活動の連携強化に寄与した。 ・ 地域語り部育成への継続的な関わり（令和7年度以降、広川町） 稲むらの火の館館長退任後も、「広川町日本遺産ガイドの会」での語り部活動や小中学生による「ごりょう語り部ジュニア」の指導に携わっている。次世代が地域の防災文化を継承できるよう尽力している。

功 績 概 要

個人〔防災思想の普及〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	よこやまひとみ 横山 ひとみ
住 所	鳥取県鳥取市
職 業	鳥取県学校防災アドバイザー
功 績 の 概 要	教員を退職した平成２３年４月以降、教師（小学校長等）としての豊富な知識や経験を活かし、過去の災害の教訓や地理的条件等を踏まえた鳥取県独自の小学生向け防災教育プログラムである「鳥取型防災教育の手引き」の製作やその効果的な活用に取り組み、本県における防災教育のレベル向上にあたり、多大な貢献があった。 平成２６年からは鳥取県学校防災アドバイザーとして、県内の各学校で実践的な防災教育の授業を行い、将来の地域防災の担い手となり得る人材の確保、育成に尽力するとともに、各学校の危機管理マニュアル見直し及び訓練の指導・助言を行い、災害安全に係る安全教育及び安全管理の推進に多大な貢献をしている。 また、平成２６年から鳥取県自主防災活動アドバイザーとして、地域に出向き自主防災会等が行う親子や保護者を対象とした防災学習会の講師を担うなど、鳥取県の地域防災力向上に貢献している。 加えて、平成２５年からは鳥取県学校の安全教育推進委員会の委員に就任し、実践的な避難訓練実施のための指導等、鳥取県教育委員会が推進する防災教育に対し、政策面においても指導的役割を果たすなど、本県における防災教育のレベルの飛躍的な向上にあたり、多大な貢献をしている。

功 績 概 要

個人〔防災思想の普及〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	やたべ りゅういち 矢田部 龍一
住 所	愛媛県松山市
職 業	愛媛大学 名誉教授
功 績 の 概 要	氏は、行政と大学が連携した「防災士養成講座」の開講をはじめ、大学の単位と防災士をともに取得できる講座の開始や大学生防災士のNPO団体「防災リーダークラブ」の結成等、「防災による人づくり」に長年取り組んでいる。 また、氏の主導で令和元年度より開始した産官学民による「全世代型防災教育」では、小学校5年生から高校生までが参加する「ジュニア防災リーダークラブ」の発足、防災士のスキルアップと連携を強化する「防災士フォローアッププログラム」の開講、「企業防災研修」・「福祉施設向けの防災研修」の展開等により、多様な視点を持つ防災人材の成長や防災思想の普及の大きな広がりを見せている。 特に、氏の発案による中学1年生を対象とした「マイ・タイムライン」の学習と「とどけ命のハガキプロジェクト」は、地域や学校、企業も巻き込みながら、世代を超えた交流による地域活性化等、防災を超えた効果も表れており、これらは高く評価され、モデルとして全国にも発信されている。 こうした氏の功績は誠に顕著である。

功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 氏 名	かぎや はじめ 鍵屋 一
住 所	東京都港区
職 業	大学教員
功 績 の 概 要	氏は、国の防災行政をはじめとする各般の防災対策の検討の場において各種委員として関わるとともに、また、社会活動や講演活動を積極的に行い、防災・危機管理の情報発信も精力的に行っている。特に、被災者支援のあり方検討会においては、座長を務め、より実効性ある質の高い被災者支援や官民が連携した被災者支援体制の整備に関する知見の提供や助言など、氏による精力的な活動が国全体の防災力向上に多大な貢献をしている。

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	くさの かんや 草野 完也
住 所	神奈川県横浜市
職 業	東海国立大学機構名古屋大学 名誉教授・特任教授
功 績 の 概 要	氏は総務省「宇宙天気予報の高度化の在り方に関する検討会」の座長を務め、わが国で初めての宇宙天気災害に関する公式報告書「『文明進化型の災害』に対応した安全・安心な社会経済の実現に向けて」を作成し、宇宙天気災害への備えや対応の基盤構築に大きく貢献した。また、全国規模の研究プロジェクト文部科学省科研費新学術領域「太陽地球圏環境予測（PSTEP）：我々が生きる宇宙の理解とその変動に対応する社会基盤の形成」の領域代表者を務めると共に、宇宙天気災害の原因である大規模太陽フレアの発生をその位置まで正確に予測する手法を自ら開発するなど、高度に進化した現代社会における脅威である宇宙天気災害に備えるための研究開発を大きく前進させた。さらに、新たな災害である宇宙天気災害の社会的認知を広める普及活動を積極的に推進した。

功 績 概 要

団体〔防災思想の普及〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	こうえきしゃだんほうじんえすえるさいがいぼらんていあねっとわーく・いちはら 公益社団法人 SL災害ボランティアネットワーク・市原
所 在 地	千葉県市原市
代 表 者 (団体での職名)	代表 ぬまの 沼野 ひろし 博
功 績 の 概 要	本会は、大地震や風水害等の大規模災害に備え、「わが身わが命は自分で守る」ことを基本精神として、地域に根ざした自主的な防災活動・被災地支援活動を行い、会員自身のスキルアップと地域での防災・減災活動の普及に取り組むことで、平成7年の設立当初から長きにわたり地域防災力の向上に尽力している。 平時には、地元自治体や社会福祉協議会、ボランティア団体等と連携し、防災訓練や住民向けの防災講座等による啓発活動に積極的に取り組んでいるほか、実災害発生時には、地域における避難所の支援や復旧支援に尽力してきたほか、遠方における災害被災地にも支援物資を届けるなど、その活動は幅広い分野に及んでいる。 市原市において実施している「いちはら市民大学「防災コース」」においては、講師として座学のほか、グループワークや図上演習を取り入れた講座を実施し、自主防災組織など地域の防災リーダーの育成を図っているほか、市内各地域に出向き、防災訓練やイベントでの啓発活動や地区防災計画の策定に向けた勉強会やワークショップ、さらには、将来の地域防災を担うこども向けの防災実技指導などにも取り組み、地域の防災に対する意識の醸成と知識・技術の向上に大きく貢献している。 令和7年度は、従来の活動に加え、千葉県防災研修センターにおいても講師として活動事例紹介を行い、日頃の備えや地域と連携した防災活動の具体的な方法等を、市内に限らず県民に広く周知・啓発する役割を担った。 また、東日本大震災などこれまで日本各地で発生した大規模災害の被災地に対し、支援物資や義援金による支援を実施してきたほか、令和元年房総半島台風災害時には、避難所運営支援や災害ボランティアセンターの運営に当たり、支援団体等とも連携して復旧支援活動を行うなど、実災害においても、共助による防災活動の牽引役を担っている。 本会は、これら平時・有時において自治体や地域、各種支援団体などと連携し、継続的に防災活動に取り組むことで、自助・共助・公助をつなぐ役割を果たしており、地域防災力の向上に関する多大な功績をあげている。

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	のかたくじしゅぼうさいかい 野方区自主防災会
所 在 地	愛知県日進市
代 表 者 (団体での職名)	会長 やまだ ひろやす 山田 博泰
功 績 の 概 要	野方区自主防災会は設立より、定期的な自主防災会議の開催や街頭消火器点検、区長・副区長・民生委員による災害時要援護者の訪問など地域のために活動してきた。また南海トラフ地震発生により野方区で被害が発生した想定で、地域避難場所となる野方公民館および一時避難場所となる野方北集会所・野方三ツ池公園交流館の開設運営訓練を行っている。このように被害状況や災害時の役割分担等を具体的に想定した訓練は、防災力の強化および防災意識の向上に大きく寄与し、他の規範と認められる。

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	くしろしぼうかかんりしゃれんらくきょうぎかい 釧路市防火管理者連絡協議会
所 在 地	北海道釧路市
代 表 者 (団体での職名)	会長 藤井 芳和
功 績 の 概 要	釧路市防火管理者連絡協議会は、さまざまな業種の職場において防火管理に携わる者により結成しており、いろいろな研修や交流を通じて防火管理に関する情報交換を行い、自らの職場から「火事をださない」を合言葉に日頃からの自主管理に努めている。 また、地域に密着した活動を目指し、自らの事業所活動と地域活動の連携を重点にした防災事業を行なっている。 (1) 防火・防災に関する研修会の開催 (2) 釧路市消防本部と協力し毎年の普通救命講習の開催 (3) 火災予防啓発活動 (4) 火災予防啓発ポスターの作成配布 (5) 火災予防運動への参加 (6) 防火スポーツ大会への助成事業 (7) くしろ防災ワンデーへの助成事業 (8) 防火防災かるた大会への助成事業 (9) 北海道シェイクアウトへの参加

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	とくしまけんりつあなんひかりこうとうがっこうぼうさいしのかい 徳島県立阿南光高等学校 防災士の会
所 在 地	徳島県阿南市
代 表 者 (団体での職名)	校長 おりの あきひろ 織野 明弘
功 績 の 概 要	(1) 東日本大震災の復興防災に貢献した。 防災士の会に所属している生徒は、環境問題に取り組む「緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム」に所属している。そのチームが開発した資源循環型肥料「もったいない2号α」は、平成28年より東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市で、津波の到達地点に桜を植える桜ライン311の桜の肥料に活用され、防災復興に貢献した。 (徳島新聞記事参照) ●取り組みは令和9年春で10年目を迎える。 ●秋と春の年2回桜の植樹に合わせて毎年300Kgの肥料を送っている。 ●代表生徒が訪問し、陸前高田市桜ライン311との交流を続けている。 (2) 町民に向けた避難者支援として、収容可能人数や備品などを掲載したチラシを作成し、災害時に敏速な避難行動を促す地域防災活動に貢献した。(徳島新聞記事) ●地域住民に避難所を知らせる地図を小学校・公民館に配布掲示し、住民の行動意識の高揚に貢献した。 ●公民館だよりを通じて、敏速な行動を促す活動に向けた率先避難行動に貢献した。 (3) 広域災害避難所である校内に、園児・小学生・高校生・地域住民が一体となって災害時に新鮮野菜を提供する「防災ガーデン」を設置し、避難者の食のQOLの向上に貢献した。(徳島新聞記事) ●小学校・保育園の子供たちが、阿南光高校への避難行動訓練に合わせて野菜の種まきや植え付けを行い、身近な避難所としての意識を高める防災活動に貢献した。 (4) 防災ガーデンの運営を通じて「災害を迎え撃つ」防災人材の育成に貢献した。 ●防災ガーデンの野菜の植え付け・種まき・収穫は校種間の垣根を越え、園児、児童、生徒が行い「毎日が防災の日」として防災に向けた意識の高揚に貢献した。(読売新聞記事) (5) 環境と防災をコラボさせ環境に優しい栽培に貢献した。 ●放置竹林の竹や河川、道路・公園等の維持管理で発生する刈草や竹を原料に開発した資源循環型肥料「もったいない2号α」を活用し、防災と環境という異分野のコラボレーションとして革新的な取り組みに貢献した。 (6) 阿南光高校が主体となって地域合同防災避難訓練を実施し、地域防災まちづくりに貢献した。 ●高校生が近隣の保育園児・小学校児童を引率しての率先避難行動者として貢献した。

功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	つばめしじどうけんしゅうかん「こどものもり」 燕市児童研修館「こどもの森」
所 在 地	新潟県燕市
代 表 者 (団体での職名)	館長 さかもと あきお 坂本 晃男
功 績 の 概 要	子どもたちの防災力を高め、「遊び」と「食」をキーワードに地域と子どもたちをつなぐ多くの防災イベントを実施している。例年10月をこどもの森の防災月間として防災の視点を取り入れた取り組みを継続して実施している。 また、「子どものための児童館とNPOの協働事業（NPOどこプロジェクト）」（※1）、「つながる防災プロジェクト」（※2）への参加など多様な主体と連携したイベントを実施し、災害時に地域の頼りどころとなることが出来るような活動を行っている。 以下には主な活動を記載する。 （※1）行政の縦割りを超えて地域の課題に主体的に取り組んでいるNPOと、子どもの拠点として活動している児童館との連携によって、子どもが地域の資源や課題に触れる機会を提供し、子どもたちと地域が共に気づき、学びあう環境を作ることを目指すプロジェクト。こどもの森では2014、2015、2018、2019年の4年間実施。 （※2）0～18歳の子どもたちが誰でも利用することができ、遊びを通じて子どもが生き生きと育つ場づくりをしている児童館の特性を活かし、さまざまな地域の人たちがつながり、「誰ひとり取り残さない」防災・減災の取組を行うもの。こどもの森では2022年10月～23年9月、2023年10月～24年9月に実施。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 氏 名	う え む ら し ん き ち 植 村 信 吉
住 所	奈良県磯城郡三宅町
職 業	団体職員
功 績 の 概 要	長年にわたり地域防災力の向上及び災害ボランティア活動の推進に尽力し、防災思想の普及並びに防災体制整備に多大な功績を挙げている。 平成17年に防災士資格を取得後、日本防災士会奈良県支部の設立及び運営に携わり、事務局長・支部長等を歴任した。さらに、令和元年には奈良県社会福祉協議会災害受援コーディネーターに就任し、現在はNPO法人日本防災士会本部理事長として全国的な防災活動の推進に貢献している。 また、奈良県防災会議委員として地域防災計画の策定・推進に参画するとともに、全国及び県内各地における災害ボランティア訓練、防災訓練、避難所開設訓練等に継続的に従事し、地域防災力の向上に大きく寄与している。特に、実践的な避難所運営訓練や防災ワークショップを通じ、住民及び関係機関職員の防災意識向上と災害対応力強化に貢献している。 さらに、東日本大震災、紀伊半島大水害、熊本地震、能登半島地震等、全国各地で発生した大規模災害において、災害ボランティア活動及び被災地支援活動を継続的に実施してきた。加えて、内閣府の災害ボランティアコーディネート事業にも関与し、被災地支援体制の整備及び災害ボランティア人材の育成に尽力している。このほか、全国各地での講演活動、防災研修、防災士育成活動等を通じ、防災知識の普及啓発及び災害ボランティア活動の発展に大きく貢献しており、その功績は極めて顕著である。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 氏 名	こうづき やすのり 上月 康則
住 所	徳島県徳島市
職 業	徳島大学教授 環境防災研究センター 副センター長
功 績 の 概 要	氏は、徳島大学教授として、「地域防災学」を専門としており、長年にわたり学術研究と防災教育に尽力している。令和3年度から令和4年度まで「徳島大学環境防災研究センター」のセンター長、令和5年度から現在に至るまで副センター長を務め、これまで培った深い知識や知見を活かして、センターの運営に貢献するとともに、「最先端の研究・技術開発」、「教育・人材育成」、「社会実装」、「市民アウトリーチ活動」を強力に推し進めてきた。 これまで、「徳島県災害ケースマネジメント協議会」、「徳島県被災者支援推進ネットワーク会議」、「徳島県立東部防災館指定管理運営評価検討委員会」などで会長や委員長を歴任されたほか、令和6年度に設立された「県内初」の災害中間支援組織である「徳島被災者支援プラットフォーム（TPF）」では理事長を務めるなど、防災における指導的な役割を果たすとともに、平時から「顔の見える関係」づくりを主導し、本県の防災施策を専門的見地から牽引している。また、東日本大震災や能登半島地震等の災害発生時においては、調査研究にとどまらず、被災者支援ボランティア活動にも参加しており、広く県民の模範となるものである。 このように、氏は、南海トラフ巨大地震を見据えて、本県の防災行政において、指導的役割を果たすとともに、防災思想の普及や人材育成に積極的に取り組んでおり、徳島県の防災・減災体制の整備に多大な貢献をした功績は、誠に顕著である。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	いわなみ こゆる 岩波 越
住 所	茨城県つくば市
職 業	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 研究主監
功 績 の 概 要	氏は、防災科学技術研究所において、平成12年3月にXバンドマルチパラメータレーダを開発導入し、先端的気象レーダ等を用いた極端気象の観測・予測技術の研究開発を推進してきた。開発に携わった新しい降雨量推定手法は国土交通省に採用され、高精細の雨量情報を高頻度で提供するXバンドマルチパラメータレーダネットワーク：XRAINが整備された。これにより、発生頻度が増加している局地的な大雨の監視と都市型水害対策に大きく貢献した。また、重要な防災インフラとなったXRAINや貴重な資源である電波（周波数）の利用の高度化に関わる国の委員会等への参画により防災行政に貢献してきた。さらに、文部科学省令和8年度版学習資料「一家に1枚」の企画・監修チームの代表としてとりまとめを行い、防災の普及啓発活動に貢献した。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 氏 名	おおた ゆうさく 太田 雄策
住 所	宮城県仙台市
職 業	東北大学大学院理学研究科 教授
功 績 の 概 要	氏は、GNSS観測に基づく地殻変動解析を専門とし、巨大地震・津波災害の即時把握及び地震・火山活動監視の高度化に資する研究開発を推進してきた。国土地理院と連携して電子基準点リアルタイム解析システムREGARDを開発・高度化し、地震発生直後の地震規模・震源断層モデルの即時推定を可能にするとともに、津波防災情報を支える基盤技術の高度化や津波浸水被害予測の社会実装に寄与した。さらに、ソフトバンク独自基準点データの防災利活用を主導し、国の基盤観測網と民間の高密度独自GNSS観測網を統合した新たな地殻変動監視・防災解析基盤の構築に大きく貢献した。

功 績 概 要

個人 [防災体制の整備]

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 名	かとう たかあき 加藤 孝明
住 所	神奈川県川崎市
職 業	東京大学生産技術研究所教授
功 績 の 概 要	都市計画・まちづくりを専門基盤に、長年にわたり都市防災、災害復興、事前復興、地域防災力向上に関する研究・実践・政策支援を一体的に推進してきた。平時の営みと災害への備えを融合する「防災もまちづくり」の考え方を提唱し、地震火災、水害、津波、復興など地域特性に応じた防災まちづくりを先導してきた。さらに、内閣府・国土交通省の多数の委員会等に参画し、巨大災害対策、事前復興、水災害対策、国土計画等を横断する政策形成に継続的に貢献している。学術的知見を実践と政策に結び付け、災害に強く、しなやかに回復できる地域社会の形成を全国的に先導してきた功績は極めて顕著である。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 氏 名	たかはし なるみ 高橋 成実
住 所	神奈川県横浜市
職 業	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 連携研究フェロー
功 績 の 概 要	氏は、地震・津波観測監視システム（DONET）の開発に携わり、リアルタイムデータを用いた津波即時予測システムの開発と実装に大きく貢献した。平成24年に津波到達時刻、津波高、浸水エリア、浸水深分布を即時予測する技術確立、津波即時予測システムとして和歌山県と中部電力に実装し、平成28年には三重県に、令和元年度には千葉県に実装した。各県が気象業務許可を得られるよう支援するとともに、継続的に安定した運用を支え、15年目を迎えている。加えて香川大学や静岡県立大学といった地域拠点大学にも展開したことで地域内の産官学民の防災の議論が活発化している。氏は、地震・津波のリアルタイムデータの地域防災への利活用に取り組み、南海トラフ地震や海域構造に関する文部科学省受託研究他において、国内外問わず、地域防災への取り組みを継続している。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 氏 名	にし りゅういちろう 西 隆一郎
住 所	鹿児島県鹿児島市
職 業	鹿児島大学 水産学部長、農林水産学研究科長
功 績 の 概 要	被推薦者は、昭和61年に鹿児島大学大学院工学研究科を修了してから、自然災害および海岸保全に関する研究に国内外で精力的に取り組み、得られた知見を基に災害復旧や長期的な海岸保全に関する応用的な研究を鹿児島県や宮崎県を含めた全国各地の海岸で実施している。また、鹿児島県や宮崎県および北海道では海岸保全に関する委員会委員も務め、津波、高潮、高波、海岸侵食に対する整備方針をとりまとめている。さらに、沿岸域での水難事故（海浜事故）予防を目的として長年にわたり離岸流を含む沿岸域の流れに関する調査研究に尽力し、その成果を全国各地で一般市民や救難関係者向けに啓発教育し、その功績に対して「海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣表彰）」を受賞している。加えて、東日本大震災以降、岩手県と福島県での海岸で災害支援を20回以上行ったほか、2012年には東日本大震災で実働した災害ボランティア関連の講演会企画、2015年の口永良部島全島避難後の災害ボランティア調整、2016年の熊本地震での災害支援物資搬入、2018年霧島山系硫黄山噴火・白濁水流出後の自治体防災関連機関への災害調査支援を含めた総合的な災害対応活動にも取り組んでいる。災害対応可能なドローンの有効利用に関しても2011年の東日本大震災以降に研究を進め、技術者・研究者・市民・生徒向けの講習会を各地で行うなど、防災・減災事業の促進に尽力している。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 氏 名	はだ やすのり 秦 康範
住 所	山梨県甲府市
職 業	日本大学教授
功 績 の 概 要	氏は、防災工学・災害情報学を専門とし、現場に立脚した問題意識を学術的に実証するとともに、その成果を行政施策、地域防災、学校教育及び産業界の防災実践へ展開してきた。特に、都道府県別の洪水浸水想定区域内の人口・世帯数が、人口減少下においても増加している実態を明らかにし、災害リスクと土地利用の在り方に重要な問題提起を行った。また、ハザードマップの判読実態や、リスク情報が安全情報として受け止められる災害情報の裏命題に関する研究を通じ、リスクコミュニケーションの高度化に大きく寄与した。さらに、プローブカー情報を活用した災害時の道路情報共有（通れた道マップ）、大規模地震時の電気火災対策、学校等における避難訓練のアップデート、フェーズフリーの普及啓発に取り組むとともに、国及び地方公共団体の防災関係委員会等において専門的知見を提供し、実効性ある防災体制の整備に多大な貢献をしている。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	文 部 科 学 省
ふ り が な 氏 氏 名	みやけ ひろえ 三宅 弘恵
住 所	東京都文京区
職 業	国立大学法人東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター教授、国立大学法人東京大学地震研究所 教授（兼務）
功 績 の 概 要	氏は、地震ハザードマップの基礎となる強震動予測における震源モデルを研究開発し、災害を引き起こす被害地震の揺れの予測を容易とした。この成果により、平成25年に科学技術分野の文部科学大臣表彰（若手科学者賞）を受けた。氏が提唱した特性化震源モデルは、国や自治体の地震ハザードマップにおいて広く利用されている。具体的には、内閣府防災における「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（令和4年公表）」、「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会（令和7年公表）」、「首都直下地震モデル・被害想定手法検討会（令和7年公表）」等の報告書をはじめ、文部科学省が事務局を務める地震調査研究推進本部が平成17年以降定期的に公表している全国地震動予測地図の「震源断層を特定した地震動予測地図」、そして原子力発電所の基準地震動策定に採用され、強震動予測の深化において先導的な役割を果たしてきた。 また、平成27年から内閣府防災、平成17年から地震調査研究推進本部、平成30年から原子力規制委員会等の専門委員を長年務め、地震学的知見に基づく国の防災施策の高度化に貢献した。さらに成果を世界経済フォーラム等で発表すると共に、国際的なプラットフォームに実装して標準化することで、オープンデータとして発信し、わが国の地震ハザード研究のプレゼンス向上に努めた。現在では、氏の提案モデルが多くの地震多発国において活用されている。以上の通り、氏は自然災害科学としての地震学や地震工学を含む幅広い地震防災分野において顕著な功績を挙げており、わが国の地震災害研究と地震防災行政に大きな貢献を果たしている。

功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	国 土 交 通 省
ふ り が な 氏 名	ひらまつ しんや 平松 晋也
住 所	長野県松本市
職 業	国立大学法人信州大学 名誉教授
功 績 の 概 要	氏は信州大学農学部において、長年にわたり砂防学にかかる多数の研究業績を上げてこられた。 表層崩壊から深層崩壊まで多様な斜面崩壊を調査・研究する中で、特に山腹崩壊のメカニズムを解明するため、斜面に生育する樹木の根系と雨水の挙動の関係を長年にわたり現象論的に研究され、山腹崩壊の発生予測に繋がる成果を挙げられた。また、大規模土砂災害発生後の警戒避難基準の設定及びその解除時期に関する研究、森林の有する崩壊発生抑制力の適正評価に関する研究を始め、深層崩壊や大規模な表層崩壊の発生メカニズムの解明及びその予測手法の開発に向けた研究に取り組んでこられ、これら多岐にわたる多くの研究成果を砂防学会誌をはじめとした学術誌に投稿されている。これらの研究成果は日本のみならず海外においても高く評価されるとともに、他の関連する研究や行政等による防災実務において広く反映、活用されることで、実学としての砂防学の発展に寄与している。 また、御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会、土砂災害警戒情報検討委員会、大規模土砂災害対策検討会など、国土交通省や長野県を中心に数多くの委員会等に参加、座長や委員長を務められ、最新の研究成果や高度な知見をもとに、技術的、学術的な面からの確かな助言、指導を行うなど、砂防行政においてより効果的な施策を立案、展開するため多大なる貢献を頂いた。 教育面に関しては、信州大学等において質の高い教育を実践し、これにより旧建設省、国土交通省、林野庁、都道府県、民間建設系コンサルタント社等に多くの優秀な砂防技術者を輩出することに貢献した。その他、各種シンポジウムや学術的な会議において基調講演を行うとともに、メディアにも積極的に出演し土砂災害にかかる講義、説明を行うなど、講演や書籍の執筆、広報活動を通じて若手研究者や技術者への技術伝承にも努めている。 また、公益社団法人砂防学会及び日本地すべり学会において、長年にわたり理事、役員として学会活動に携わられており、平成30年からは砂防学会専務理事、令和2年には日本地すべり学会長に就任され、砂防、地すべり分野において学会の発展と科学技術の振興に尽力されてきた。日本地すべり学会長在任中は、技術者の確保や斜面防災教育の必要性、魅力ある学会の活動の推進等を学術団体として広く社会に発信することに努められ、学会を通じて研究者や技術者の育成、技術力や研究力の向上に貢献された。 以上のように、一貫して学界に籍を置き、砂防に関する学術研究に貢献するとともに、地域活動への尽力も含めた様々な土砂災害対策や防災・減災に関する活動を通じた国土や地域の強靱化への貢献、砂防関係人材の育成及び砂防研究の広報等における功績は誠に大きく、砂防事業の推進と発展に対する功績は極めて顕著である。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	きりはたじしゅぼうさいかい 切畑自主防災会
所 在 地	秋田県湯沢市
代 表 者 (団体での職名)	会長 さとう はじめ 佐藤 肇
功 績 の 概 要	切畑自主防災会は、令和5年1月、県内2例目となる地区防災計画「切畑地区防災計画」を策定し、最寄りの消防署から距離があるという地域特性を踏まえ、住民・防災士・行政が連携した実践的な防災体制を構築した。 計画策定後も、地域の危険箇所の点検や住民参加型の防災訓練を継続するとともに、ドローンを活用した避難経路の検証、「安否確認用タオル」の配布など、地域の実情に即した特色ある取組を実施している。これらの活動を通じて、住民一人ひとりの防災意識と地域の災害対応力を高めるとともに、その取組は周辺地域にも広がり、地域全体の防災力向上に寄与している。 また、市社会福祉協議会と連携し、要支援者マップを毎年更新するなど、災害時における要支援者への支援体制の充実にも取り組んでいるほか、観桜会等の地域行事を開催し、平時から住民同士の交流とつながりを深めることで、災害時の助け合いにつながる地域コミュニティの形成にも努めている。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	にしふくたがつくれんらくきょうぎかい 西福田学区連絡協議会
所 在 地	愛知県名古屋市
代 表 者 (団体での職名)	代表 さとう やすひさ 佐藤 泰久
功 績 の 概 要	川に挟まれた孤立する恐れのある地域の特性を踏まえて、道路冠水や湛水時に円滑に物資運搬などを行うため、水陸両用の台車である「水陸丸」を自前で作製し普及活動続けるほか、令和2年には巨大地震を見据えて学区全世帯にアンケート調査を実施し、今後取り組むべき課題を明確にするなど、発災に備えた独自の活動に継続的に取り組んでいる。なかでも、被災時の安否表示・確認、情報伝達について、赤・白といったタオルで行う安否確認ルールを毎年の訓練を通じて住民の8割に定着させてきた。また、超高齢化学区の特性を踏まえて、避難所運営の担い手確保の観点から地元小学校と合同で授業参観とあわせて毎年学区訓練を実施し、地域の繋がりを大切にした幅広い防災人材の育成に継続的に取り組んでいる。こうした取り組みは地域防災力の向上に寄与するだけでなく、他の地域の模範となるものであり多大な功績がある。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	ほしざきがつくれんらくきょうぎかい 星崎学区連絡協議会
所 在 地	愛知県名古屋市
代 表 者 (団体での職名)	代表 かくむ けんいち 各務 憲一
功 績 の 概 要	平成27年、28年度の2ヵ年にわたる検討により作成した「星崎学区地区防災計画（地震編）」は、名古屋市防災会議において名古屋市内初の地区防災計画として認定され、地域防災力の向上に寄与した。 計画完成後においても星崎学区連絡協議会では、防災訓練の実施や月に数回会議を開催し、確固とした防災体制の整備、構築を図っている。 令和8年度には「星崎学区地区防災計画（風水害編）」を作成し、「星崎学区地区防災計画（地震編）」に引き続き、名古屋市防災会議において地区防災計画として認定された。

功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	ももやまがつくぼうさいあんしんまちづくりいいんかい 桃山学区防災安心まちづくり委員会
所 在 地	愛知県名古屋市
代 表 者 (団体での職名)	代表 はしぐち つよし 橋口 剛
功 績 の 概 要	桃山学区の各町内会をとりまとめ、防災・減災の取り組みについて話し合いや訓練を実施、桃山学区地区防災計画を定めるなど共助の取り組みを推進した。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	かだちくぼうさいかい 加太地区防災会
所 在 地	和歌山県和歌山市
代 表 者 (団体での職名)	会長 ふじい やすお 藤井 保夫
功 績 の 概 要	加太地区防災会は、自主的な防災活動を行い、災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的として平成7年に発足し、継続的に地区における防災体制の整備に取り組んでいる。また、加太地区に居住する避難行動要支援者を対象に個別避難計画が作成されたことをきっかけに、防災訓練では避難行動要支援者本人と民生委員等の関係者が参加する避難訓練を継続的に実施している。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	はちまんちくじしゅぼうさいかいいれんらくきょうぎかい 八万地区自主防災会連絡協議会
所 在 地	徳島県徳島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 くじめ じゅんいち 潤一
功 績 の 概 要	平成１９年１０月１日結成以降、八万地区自主防災会連絡協議会は、計画的に防災訓練、防災研修等を実施しており、一部が津波避難困難地域であることから地域住民の防災意識も高く、毎回多くの地域住民が訓練等に参加している。 また、自主防災会、学校、コミュニティセンター及び消防団等の各種団体と連携し、避難場所の確保や避難経路の調査など、地域に根ざした防災活動を実施し、地域一丸となった協力体制を確立している。 平成２９年度には津波避難支援マップの作成、令和３年度には地区別津波避難計画の策定に積極的に関わり、南海トラフ地震等の大規模災害が発生した場合の被害軽減や防災体制の整備に取り組んでいる。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	内 閣 府
ふ り が な 名 称	にしむたくじしゅぼうさいかい 西牟田区自主防災会
所 在 地	佐賀県鹿島市
代 表 者 (団体での職名)	会長 なかむら のぶあき 中村 信昭
功 績 の 概 要	○3地区合同訓練 ・西牟田区だけではなく、近隣の区と合同で、また、消防署・警察署等の各関係機関と協力して実施されている。 ・例年、参加者が80名～100名であり、多くの方が参加されている。 ○自主防災広報誌の発行（年4回～6回） ・防災や災害情報等を掲載し、西牟田区の全世帯へ配布することで防災思想の普及に努められている。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	いっぽんしゃだんほうじんかなでのもりばーとなーず・みつびしじしょぐるーぷのぼうさいくらぶ 一般社団法人奏の杜パートナーズ・三菱地所グループの防災倶楽部
所 在 地	千葉県習志野市
代 表 者 (団体での職名)	奏の杜パートナーズ理事長 なかた まさのり 仲田 正徳
功 績 の 概 要	津田沼奏の杜は、千葉県習志野市にあるＪＲ津田沼駅南側に位置し、土地区画整理事業によって整備され平成２５年にまちびらきをした約３５haの新しいまちである。被災地より「地域の人たちで助け合いながら被災生活の困難を乗り越えてきた」ことを教わり、災害時には「まち全体で助け合う」ことが重要だと感じたことをきっかけに、平成２７年から防災活動に取り組んでいる。 平成２７年３月「ザ・パークハウス 津田沼奏の杜」において、初めての防災訓練を企画・実施する段階から「街全体で助け合えるようになりたい」という目標を掲げた。 奏の杜地区の住民を主体とするエリアマネジメント組織である奏の杜パートナーズと三菱地所グループの防災倶楽部は、周辺のマンション、戸建て住宅地に声をかけながら毎年仲間を増やし、地域全体での防災体制の構築に取り組んできた。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	こうちぼうさいぷろじえくと 高知防災プロジェクト
所 在 地	高知県高知市
代 表 者 (団体での職名)	代表 やまさき みきお 山崎 水紀夫
功 績 の 概 要	1) 令和2年に全国初の車中泊避難所に特化した受け入れ訓練を実施。その後も研修を継続したことで動きは全国に広がり、令和7年7月の災害対策基本法等の一部を改正する法律について（令和7年7月1日付け府政防第1051号及び消防災第104号）において車中泊避難者への支援が明記されるなど法律改正のきっかけとなった。 2) 汎用性の高いワークシート（7種類）を開発するなど当団体の取り組みが全国の車中泊避難所検討の礎となっている。 3) 緊急避難も避難所生活も車中避難という言葉しかなかったが、緊急避難は自動車避難、避難所生活は車中泊避難とフェーズによる言葉の整理を行った。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	すみにしさいがいじさぼーとたい 隅西災害時サポート隊
所 在 地	東京都墨田区
代 表 者 (団体での職名)	ふくい こうき 福井 幸喜
功 績 の 概 要	隅西災害時サポート隊は、東京都の地域総合危険度上位にランクされる墨田区墨田三丁目の木造密集地域において、平成20年から「災害時に一人も見逃さない」をスローガンに、女性を中心とした地域防災活動を継続的に展開している。同隊は、要配慮者及び危険箇所情報を盛り込んだ独自の「災害時要援護者マップ」を作成し、老人会等での防災講話を通じて定期的な情報更新を行うとともに、狭隘道路での実火災を想定したスタンドパイプ訓練を実施し、消防署主催の防災コンテストでは継続的に上位入賞を果たしている。また、近隣中学生への技術指導による次世代育成やLINEグループを活用した迅速な連絡体制の構築により、大型台風時には実際に要配慮者の避難支援を行うなど、実践的な防災活動を展開している。これらの活動により、消防団入団者や防災士の増加、近隣町会への活動拡大など、地域を超えた防災意識の向上と防災力強化に顕著な貢献を果たしている。

功 績 概 要

団体 [防災体制の整備]

推 薦 者	消 防 庁
ふ り が な 名 称	みかわわんあけみちくさんぎょうきちうんえいじちかい 三河湾明海地区産業基地運営自治会
所 在 地	愛知県豊橋市
代 表 者 (団体での職名)	会長 かわにし まさかつ 川西 正克
功 績 の 概 要	堤外地の工業専用地域である、明海地区全体の共通リスクに備えるため、情報伝達訓練などの企業間連携を強化した取り組みを実施しているほか、年に1回総合防災訓練として豊橋市と連携した応急救護所開設・運営訓練を継続的に実施している。こうした実践的な取り組みの成果として「明海地区防災ガイドライン」の策定や地区内企業へ共通の無線通信機器の導入促進など、地区全体の防災力向上に貢献することで、企業ごとのBCP強化や地域連携に多大な貢献をしている。